

## 2026年度 講義要綱

科 目	コミュニケーションⅡ 必修 講義	講 師	木下 裕子	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としての必要な基礎力を高める。</li> <li>・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目4コマ)前期3コマ:後期1コマ</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、自己成長や問題解決力を高める</li> <li>・保育者としてのコミュニケーションスキルを身に付け、同僚性を高める。</li> <li>・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。(認定:「絵本と出会う④」関本練)</li> <li>・絵本が大人に与える影響について理解する。(認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世)</li> <li>・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。(認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学)</li> <li>・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべき子とを理解する。(認定:「ディスカッション」なかむらしんいちろう)</li> </ul>			
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	保育者として必要なコミュニケーションスキルを発揮し、学習や就職の活動に活かすことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション			
	2 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	3 【認定絵本士養成講座科目】(1)「絵本と出会う④」担当:関本練			
	4 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	5 【認定絵本士養成講座科目】(2)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学			
	6 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	7 【認定絵本士養成講座科目】(3)「大人の心を豊かにする本」担当:細江幸世 課題提出			
	8 クラス活動か就職に向けて			
	9 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	10 クラス活動か就職に向けて			
	11 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	12 クラス活動か就職に向けて			
	13 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	14 クラス活動か就職に向けて			
	15 クラス活動か就職に向けて 前期終了			
	16 クラス活動か就職に向けて 後期開始			
	17 クラス活動か就職に向けて			
	18 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	19 クラス活動か就職に向けて			
	20 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	21 10/31【認定絵本士養成講座科目】(4)「ディスカッション」担当:なかむらしんいちろう			
	22 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	23 クラス活動か就職に向けて			
	24 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	25 クラス活動か就職に向けて			
	26 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	27 クラス活動か就職に向けて			
	28 クラス活動か就職に向けて ブレンデッド			
	29 クラス活動か就職に向けて			
	30 クラス活動			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	木下 裕子:クラス担任、実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者 ○細江幸世:絵本作家、絵本研究家、絵本をめぐる活動に精通した者 ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者 ○なかむらしんいちろう:講座責任者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2026年度 講義要綱

科目	保育と外国語	必修 講義	講師	金藤 明美
授業概要	本授業では、保育現場で活用できる幼児への基本的な英語の語りかけ表現を学ぶとともに、幼児と一緒に楽しめる英語の歌やゲーム、さまざまなアクティビティを体験しながら実践的に英語を身につける。さらに、初対面の場面などで使える基本的な英会話表現についても学習する。また、机上での学習だけでなく、表情やジェスチャーなどの非言語コミュニケーションにも意識を向け、体験的な活動や練習を通してコミュニケーション力を高めることを目指す。加えて、英語教育や保育に関連する有益な情報を共有することで、英語への興味・関心を深める。			
授業目標	1 保育現場で使用する基本的な英会話表現を繰り返し練習することで、表情やジェスチャーを取り入れた自然で表現豊かな発話力を身につける。また、幼児と一緒に楽しめる英語の歌やさまざまな活動を体験的に学び、それらを保育の現場で活用できる力を養う。 2. 初対面の場面で用いられる英語表現を学び、英語によるコミュニケーションの楽しさや大切さを理解しながら、積極的にやり取りする姿勢を育てる。			
到達目標1	・保育現場において、幼児たちに語りかけるための基本的な英語表現を、場面別に習得する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験【50点】	
到達目標2	・初対面英会話の習得ができる。 ・自己紹介・Show and Tell・絵本の読み聞かせの体験ができる。 ・非言語によるコミュニケーションの体験ができる。 ・幼児と楽しめる英語の歌・活動の体験ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・初対面会話の口頭試験【30点】 ・発表体験:①自己紹介(ミニブック提出含む) ②Show and Tell 2つの小計【20点】 ※発表内容の出来栄により加点あり ※出席・授業態度は加点対象	
授業方法	対面 ・全体練習・グループ練習・ペアワークなど、多様な形での学習 ・音源・(絵)カード・具体的な教具を使用した学習 オンライン ・ICTの活用			
授業計画	<p>1 講義要綱</p> <p>①コミュニケーションKeys ②保育現場での英語教育について ③Hello Song/英語であいさつ ④自己紹介表現 ⑤幼児の為の英語表現練習ー誉め言葉</p> <p>2 ①バーバル・ノンバーバルコミュニケーション ②自己紹介表現(ミニブック作成) ③幼児の為の英語表現練習ー誉め言葉・励ます言葉 ④英語の歌</p> <p>3 ①幼保英語検定 ②フォニックスってな〜に？ ③自己紹介表現練習 ④初対面英会話練習 ⑤幼児の為の英語表現練習ー公園編(単語レベル)</p> <p>4 ①フォニックスの練習 ②自己紹介発表 ③幼児の為の英語表現練習ー公園編(文レベル) ④英語の歌</p> <p>5 ①世界のLunch+世界の幼稚園 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ー食事編(単語レベル) ④Show and Tell 準備</p> <p>6 ①Halloweenのお話 ③Show and Tell 体験 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ー食事編(文レベル)</p> <p>7 ①トイレのお話し ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ートイレ・身支度編(単語レベル) ④英語の歌</p> <p>8 ①Multiple Intelligence(多重知能理論) ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ートイレ・身支度編(文レベル) ④英語の歌</p> <p>9 ①保育関係(者)の英語名称と英語圏で働く保育士さんの声 ②初対面英会話練習 ③幼児の為の英語表現練習ーその他の表現(単語レベル)</p> <p>10 ①初対面英会話練習 口頭試験 ②幼児の為の英語表現練習ーその他の表現(文レベル) ③筆記試験の為の復習</p> <p>11 ①子供幸福度ランキング ②絵本とその活動 ③総復習</p> <p>12 ①筆記試験 ②世界幸福度ランキング</p> <p>13 ①絵本とその活動 ②感想シェア</p> <p>14 中国語</p> <p>15 韓国語</p>			
必須テキスト	English For Use in Nursery Schools			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年に渡り英語教室運営。北区外国語教育アドバイザー。アルクこども英語・小学校英語関係出版物執筆協力。読売KODOMO新聞「やってみよう！」共同監修。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 講義	講 師	高見 美恵子	
授業概要	乳幼児期・児童期に必要な効果的な、「コーディネーション運動」及び、子どもたちが楽しみながら参加するための実践技法である、「共感するコーチング」について理解し実践できる技能を身につける。			
授業目標	1、コーディネーション運動と関連する科学的根拠についての知識を習得する 2、共感するコーチングの関連する科学的根拠についての知識を習得する 3、共感するコーチングを活用したコーディネーション運動を実践する 4、立てたねらいに沿った実践案を作成し実践する			
到達目標1	コーディネーション運動と共感するコーチングおよび関連する科学的根拠について具体的に説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)、講義内容に関する筆記試験(20点)	
到達目標2	各コーディネーション能力を向上する 実践案の作成と共感するコーチングを活用した実技の実践ができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ学習の主体性(10点)、実践案(10点)、実技試験(15点) 振り返りシート(15点)	
授業方法	実技、座学、グループ学習、オンライン授業を含む			
授業計画	1 「授業概要・目標・評価方法・持ち物の説明・授業の進め方」「運動神経について」 2 乳幼児期・児童期におけるコーディネーション運動の効果、コーディネーション能力 3 コーディネーション運動の体験、「コーディネーション能力」 4 「展開の形式」「遊びの要素」について 5 「コーディネーション能力」「展開の形式」「遊びの要素」の体験と実践 6 共感するコーチング、「軸移動」「プレスト」について 7 共感するコーチング、「軸移動」「プレスト」の体験、実践 8 共感するコーチング、「動機づけ」「must & will」「ユーモア」について 9 共感するコーチング、「動機づけ」「must & will」「ユーモア」の体験、実践 10 実技試験グループ分け、実技試験の実践案立案 11 筆記試験、実技試験の実践案立案 12 実技試験の実践案記入 13 実技試験と振り返り① 14 実技試験と振り返り② 15 実技試験と振り返り③			
必須テキスト	「楽しみながら脳を育てる 幼児のためのコーディネーション運動」 明治図書出版株式会社 (ピンク色)			
参考文献				
担当教員の専門分野等	「実技経験のある教員による授業」に該当。保育園・公共施設・主催教室などの親子・幼児・児童・シニア対象講座、イベントにてコーディネーション運動講師を担当。子育てにも生かせるコーディネーション運動セミナー講師担当。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作 必修 講義		講 師	南部 英子
授業概要	実務でよく使われるオフィスソフトの基本操作、および情報モラル・情報セキュリティの基本について学習する。保育の現場を意識し、学び合い、協働作業、振り返り等、グループワークを通して情報機器の活用方法を習得する。			
授業目標	1. 保育の現場に最も身近なICT機器の1つであるPCを使い、オフィスソフトの基本操作を習得する。 2. 情報を正しく安全に取り扱う方法を知り、情報化社会において自身を守る術を身に付けた上で、ICT機器を活用した協働作業ができる。			
到達目標1	ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内個人課題提出(30点)、Word・Excel小テスト(20点)	
到達目標2	情報モラル・情報セキュリティに配慮し、ICT機器を協働作業で活用することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	PowerPointでのグループ発表に関して作成過程および発表への貢献度、相互評価・振り返りレポート提出(30点)、情報セキュリティ・情報モラルに関するまとめフォームへの回答(20点)	
授業方法	PC操作実習。情報モラル・セキュリティの基礎知識クイズ。グループワーク・作品発表。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業計画・PC基本操作・文字入力確認・Teams確認・通信環境アンケート) 2 プレゼンテーション1(PowerPoint:基本操作・オブジェクト) 3 インターネット・メール・情報セキュリティ 4 文書作成1(Word:お知らせ文) 5 文書作成2(Word:イラストや表の入った文書・ショートカットキー) 6 文書作成3(Word:まとめ小テスト、知識整理) 7 表計算1(Excel:表作成・計算式) 8 表計算2(Excel:関数・グラフ) 9 情報セキュリティ復習・情報モラル 10 表計算3(Excel:データベース、小テスト) 11 プレゼンテーション2(PowerPoint:オブジェクト復習・アニメーション・グループ発表計画) 12 プレゼンテーション3(PowerPoint:グループ発表作成) 13 プレゼンテーション4(PowerPoint:グループ発表完成・練習) 14 グループ発表・相互評価(PowerPoint・Excel) 15 振り返りレポート作成(Word・Excel・PowerPoint)			
必須テキスト	特に指定なし。			
参考文献	特に指定なし。			
担当教員の 専門分野等	博士(人間科学)。比較行動論。大学非常勤講師(情報基礎科目)。 民間PCスクール、企業新人PC研修、再就職PC研修、教育現場でのICT機器の操作活用支援を経験。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援論 必修 講義		講 師	前川 洋子
授業概要	家庭という視点から支援のあり方を理解する。家庭生活を取り巻く様々な社会的状況について把握し、問題の所在や支援方法を学ぶ。社会福祉の視点も含み、家庭支援の基本的な知識と専門性について学ぶ。			
授業目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			
到達目標1	家庭支援を基盤に保育士の行う相談等の意義と資源の活用、関係機関との連携を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、理解度確認の小テスト課題(30点)	
到達目標2	ニーズに応じた多様な支援の展開と家庭支援の現状、課題を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。 地域の子育て家庭支援策の課題提出と発表を行います。			
授業計画	1 1.オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性 2 2.家族システムと家庭 家庭機能の低下 3 3.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4 4.保護者との相互理解と信頼関係の形成 5 5.保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 6 6.支援における保育士の基本的態度 7 7.子育て家庭の抱える課題の理解と支援家庭の状況に応じた支援 8 8.地域の資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力 9 9.子育て家庭の福祉を図るための社会資源 10 10.国策・自治体の子育て支援策及び子ども家庭支援に関わる法律 11 11.多様な支援の展開と関係機関との連携 要保護児童等及びその家庭に対する支援-1 12 12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援 要保護児童等及びその家庭に対する支援-2 13 13.子ども家庭支援に関する日本の現状と課題 世界の子育て支援国際比較より 14 14.地域の子育て家庭への支援 課題発表1 15 15.地域の子育て家庭への支援 課題発表2 総まとめ			
必須テキスト	松本園子、永田陽子他『子ども家庭支援論』ななみ書房 2023年			
参考文献	保育者のための子ども家庭福祉データブック2025 中央法規 2024年			
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員。大学通信教育テキスト『子ども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他執筆			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育者論 必修 講義		講 師	加莉 則子
授業概要	保育者の役割について学び、保育の歴史の中で保育者の制度的位置づけを理解する。 また、保育者の専門性について考察し、資質・能力の向上、キャリア形成について理解する。 合わせて、保育者の地域・家庭支援とそのことをめぐる、保育者の連携・協働について考察する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>3. 保育士の専門性について考察し、理解する。</li> <li>4. 保育者の連携・協働について理解する。</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	1. 保育者の役割、資質・能力、連携・協働について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワーク討論への参加度(20点)リアクションペーパーの提出(20点)授業内課題の提出(10点)	
到達目標2	実際の保育現場でのエピソードから子どもの姿を考察することができる。保育計画、保育教材の作成を通し保育者の専門性を理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	2. 保育計画の提出(20点)保育教材の提出(20点)授業内制作課題の提出(10点)	
授業方法	講義形式、グループワーク討論、教材作成			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業の進め方)自己紹介、保育者を目指した理由、どんな保育者になりたいか。</li> <li>2 保育者とは何か</li> <li>3 保育者の役割と制度的位置づけ。</li> <li>4 保育者として大切にしたいこと。</li> <li>5 保育者の一日、子どもの一日。</li> <li>6 子どもの発達と内面を理解する。</li> <li>7 子どもの遊びを援助する。</li> <li>8 子どもの遊びを振り返る。</li> <li>9 多様な子どもの理解と支援。</li> <li>10 遊びを援助する環境構成(多様な保育環境)。</li> <li>11 家庭や地域との連携、支援。</li> <li>12 計画に基づく保育の実践①保育計画作成。</li> <li>13 計画に基づく保育の実践②保育教材作成。</li> <li>14 計画に基づく保育の実践③保育計画評価。</li> <li>15 グループ発表(感想、評価、まとめ)、振り返り。</li> </ol>			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業内で紹介します			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所にて保育士、主任、マネージャー、園長として長年勤務。共著に「0～6歳児「言葉をそだてる」保育よくあるギモン40&言葉あそび20」(東洋館出版)の他、日本国語教育学会月刊誌への執筆なども行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭支援の心理学 必修 講義	講 師	森脇 晋	
授業概要	様々な福祉施設の実習経験から、各現場の「実際の支援/実践」の様子、「支援の視点」「支援の特徴」等、学びをまとめて発表し、他者と共有する。子ども、子育てをめぐる現状や、多様な支援の在り方への理解を深める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</li> <li>2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</li> <li>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。</li> <li>4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	自らが実習した現場の実践や、支援特徴についてまとめ、発表することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの参加姿勢・発表 (50点)	
到達目標2	自他の発表や講義から、自らが目指す支援者像や「家庭支援」を心理学的視点から深めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	学期末まとめシート(50点)	
授業方法	グループワークや発表を伴う講義受講 ※発表に関しては、発表者の進捗により授業回の内容が前後することがある。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物・グループワークの進行等の説明)</li> <li>2 グループワーク(各自の経験、実習目標に対する振り返り)</li> <li>3 グループワーク(成功・失敗体験による振り返り)</li> <li>4 グループワーク(バイステックの7原則による振り返り)</li> <li>5 グループワーク(施設の役割・機能による振り返り)</li> <li>6 グループワーク(報告書のまとめ)</li> <li>7 グループワーク(発表資料の作成)</li> <li>8 発表① 社会的養護施設(児童養護施設):子ども理解</li> <li>9 発表② 社会的養護施設(乳児院/母子生活支援施設/児童相談所):子ども理解</li> <li>10 発表③ 児童発達支援センター:多様な家庭とその理解</li> <li>11 発表④ 障害児入所施設:子どもの生活・生育環境とその影響</li> <li>12 発表⑤ 障害者入所施設:生涯発達/心の健康に関わる問題</li> <li>13 発表⑥ 障害者通所施設:ライフコースと仕事・子育て</li> <li>14 子ども家庭支援の現場からみた保育者へのメッセージ</li> <li>15 まとめ:施設実習を通した子ども家庭支援の心理学と自己覚知</li> </ol>			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設の施設長として施設実習に携わってきた経験、自治体のこども家庭支援員としての経験、保育養成施設の施設実習指導に関わってきた経験、保育所や施設実習先の実習担当者と連携してきた経験等をもとに、実務者教員として施設実習を通した子ども家庭支援の心理学的立場における自己覚知を支援する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 保育内容演習・健康 講義		講 師	竹島 孝昭
授業概要	<p>・領域「健康」における「ねらい」と「内容」の基礎を理解し、他領域と関連しあいながら、子どもの成長につながっていることを学ぶ。          ・子どもの発達過程・基本的生活習慣を学び、遊びや生活を通して子どもと関わる方法を知る。</p>			
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。          2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。          3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。          4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p>			
到達目標1	保育所保育指針における領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解したことを説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ワークシート(30点) 課題提出(20点)	
到達目標2	領域「健康」において、子どもの発達過程に即した段階を踏んだ保育活動・生活での関わりを立案・実践することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬保育指導案(20点) 模擬保育実践(30点)	
授業方法	<p>・対面及びブレンデッドでの講義          ・ディスカッションやグループワークといったアクティブラーニング          ・7階体育室での実技</p>			
授業計画	<p>1 ガイダンス／領域「健康」について          2 領域「健康」の「ねらい」          3 領域「健康」の「内容」①          4 領域「健康」の「内容」②          5 子どもの遊び①          6 子どもをとりまく社会と課題          7 子どもの心身の発育・発達          8 子どもの遊び②          9 基本的生活習慣①          10 基本的生活習慣②          11 子どもの安全生活と安全教育          12 模擬保育に向けて          13 領域「健康」における保育の展開と保育者の役割          14 模擬指導実践          15 模擬指導実践／まとめ・振り返り</p>			
必須テキスト	『保育所保育指針』			
参考文献	『保育所保育指針解説』			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年保育現場に勤務し、保育に携わる。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・人間関係 必修 講義		講 師	中山 利彦
授業概要	保育所保育指針及び同解説を用い、5領域「人間関係」の保育の内容、ねらいについて保育現場の実践例を参照しながら、同領域に関して保育士として理解しておかなければならないことを重点的に習得する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</li> <li>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</li> <li>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</li> <li>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	保育所保育指針5領域「人間関係」の内容が理解できている。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容の理解を確かめるレポート(30点)	
到達目標2	保育者と子どもの関わりから子ども同士の関わりへ向かう保育の方法を理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業中のテキスト音読・質疑応答等による授業への貢献度(20点)、保育実践に関する理解度を確かめるレポート(30点)	
授業方法	毎回、パワーポイント資料とテキストを用いて講義。授業の最後に理解度チェックレポートの記述。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ・シラバスの説明。 ・保育の目標、保育の方法、保育の環境について。 ・「見守るの保育」を読む 第1回</li> <li>2 ・子どもの権利条約、児童福祉法、そして幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力他。 ・「見守る保育」を読む 第2回</li> <li>3 ・生命の保持と情緒の安定。乳児保育における「人間関係」理解の前提。 ・「見守る保育」を読む 第3回</li> <li>4 ・コミュニケーションの積み重ねで情緒的な絆が形成される。 ・「見守る保育」を読む 第4回</li> <li>5 ・様々な人たちとの関わり(人間関係)を子どもがもちたくなるような援助の仕方。 ・「見守る保育」を読む 第5回</li> <li>6 ・自立心を育て、人と関わる力を養う。 ・「見守る保育」を読む 第6回</li> <li>7 ・保育士等の仲立ちにより、他児と関わる。 ・「見守る保育」を読む 第7回</li> <li>8 ・温かく見守るとともに、応答的に関わる保育とは。 ・「見守る保育」を読む 第8回</li> <li>9 ・集団的な遊びや協同的な活動。 ・「見守る保育」を読む 第9回</li> <li>10 ・他の人々と親しみ、支え合って生活する。 ・「見守る保育」を読む 第10回</li> <li>11 ・友だちと積極的に関わりながら共感し合う。 ・「見守る保育」を読む 第11回</li> <li>12 ・ルールを守ると友だちとの遊びが楽しくなる。 ・「見守る保育」を読む 第12回</li> <li>13 ・「けんか」、「お手伝い保育」他。 ・「見守る保育」を読む 第13回</li> <li>14 ・一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていく。 ・「見守る保育」を読む 第14回</li> <li>15 ・見守られながら、子どもたちが他者と関わる力を身につける保育の仕方とは。 ・「見守る保育」を読む 第15回</li> </ol>			
必須テキスト	保育所保育指針解説(平成30年3月厚生労働省編)、藤森平司著「見守る保育」(学研)			
参考文献	全国私立保育連盟編「コミックで発信★保育に活かす子どもの権利条約」(エイデル研究所)			
担当教員の 専門分野等	25年間、認可保育所、認定こども園にて園長、副園長として現場勤務。現在、保育所型認定こども園新宿せいが子ども園副園長。東京都福祉サービス第三者評価者、東京都保健福祉財団保育理論講師。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科目	保育内容演習・環境 必修 講義		講師	吉田 裕子
授業概要	本授業では、保育における「環境」を実践的に学ぶことを目的とし、演習を通じて子どもの発達に応じた環境構成の方法を身につける。保育現場で求められる物的環境・人的環境の工夫、安全管理、遊びを支える環境の設計などについて、理論と実践の両面から学び、具体的な環境構成の技術を習得することを目指す。			
授業目標	本授業では、保育における「環境」の意義を理解し、演習を通じて実践的な環境構成の力を養う。子どもの発達段階に応じた適切な環境づくりの方法を学び、物的環境・人的環境・安全管理・遊びを支える環境の視点から、具体的な環境設計のスキルを身につけることを目指す。			
到達目標1	保育における「環境」の役割を理解し、子どもの発達や活動に応じた環境構成の方法を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内・レポート(50):保育における「環境」の役割や子どもの発達に応じた環境構成の方法について、理解度を確認 授業内ワーク(50):具体的な事例をもとに環境構成を考え、適切に説明できるかを評価する。	
到達目標2	2演習を通じて、物的環境・人的環境・安全管理の視点から、実践的な環境設計や改善の提案ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ発表(50):実際の環境設計をグループで発表し、改善案 個人レポート50	
授業方法	講義と演習を組み合わせ、実践的な環境構成の技術を習得します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育における環境の意義</li> <li>3 子どもの発達と環境</li> <li>4 物的環境の構成</li> <li>5 人的環境の重要性</li> <li>6 自然環境の活用</li> <li>7 保育室のデザイン</li> <li>8 安全と衛生を考慮した環境</li> <li>9 遊びを支える環境</li> <li>10 環境と子どもの主体性</li> <li>11 異年齢保育の環境構成</li> <li>12 保護者との連携と環境</li> <li>13 環境の多様性</li> <li>14 総合演習</li> <li>15 まとめと実践の振り返り</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の 専門分野等				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	30 %

2026年度 講義要綱

科目	保育内容演習・言葉	必修 講義	講師	佐藤 博美、吉田 裕子
授業概要	[吉田先生]保育内容演習・言葉(該当6回) 認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当9回)			
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p> <p>・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。乳幼児が絵本に触れる為の具体的な取り組みについて理解する。・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。(認定:「絵本と出会う①」「絵本と出会う②」佐藤博美・佐藤めぐみ・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸)・子どもの興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世)・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」千葉幸)・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する(認定:「絵本の世界を広げる技術①」江花志乃)・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営にかかわる手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」近藤千春)・「おはなし会」のテクニックについて理解する。「おはなし会」のテクニックを体得する。(認定:「おはなし会の手法②」高田ちとせ)・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係わる情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」江花志乃)・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わりについて理解する。(認定:「絵本各論③」佐藤博美・佐藤めぐみ・竹島孝昭)</p>			
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	[吉田先生]発達を理解し、それに合わせた言葉がけや遊びを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	[吉田先生]授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法				
授業計画	<p>1 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」担当:佐藤 博美</p> <p>2 吉田先生①オリエンテーション 保育内容【言葉】とは何か 愛着形成について</p> <p>3 【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世</p> <p>4 吉田先生②言葉の経験とわらべうた</p> <p>5 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」担当:佐藤 博美</p> <p>6 吉田先生③伝わる言葉、伝わらない言葉 * 検討中 プレゼンテッド週</p> <p>7 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:千葉幸 課題提出 * 検討中 対面週</p> <p>8 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:江花志乃 課題提出</p> <p>9 吉田先生④気になる言葉の遅れがある子どもと保育内容と支援方法やグッズの紹介</p> <p>10 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術①」担当:近藤千春 課題提出</p> <p>11 吉田先生⑤文字の取り組みについて 実践例と言葉遊び実践</p> <p>12 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法②」担当:高田ちとせ 課題提出</p> <p>13 吉田先生⑥まとめ 言葉がけの大切さ</p> <p>14 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:江花志乃</p> <p>15 【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」担当:佐藤 博美</p>			
必須テキスト	【認定絵本士養成講座科目】 認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	<p>吉田裕子 ○佐藤めぐみ・佐藤博美・遠藤祐太郎・竹島孝昭・松森照幸:赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育、幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者○千葉幸:図書館や学校などにおいてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者 ○江花志乃:絵本検索に係るIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者○近藤千春:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○高田ちとせ:絵本に関する「お話会の実践経験」を10年以上持つ者 ○江花志乃:あらゆる分野の絵本について精通しており、図書館または書店等において絵本の提案を行っている実践経験を持つ者</p>			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容演習・表現 必修 講義	講 師	二木 秀幸	
授業概要	子どもの発達を考えながら、保育に関わる表現活動全般を取り上げる。あそびを通して「表現することの楽しさ・喜び」を自ら感じ体験する。そしてそれらを子どもに伝えられる保育者になるための理論と実践を演習する。			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。			
到達目標1	様々な表現の研究を軸に、あそびの中から表現する術を理解し、実施することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点)+作品発表(20点)	
到達目標2	子どもの表現の育ちと保育者の役割について理解し、子どもの表現活動に対する指導方法を実施できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点)+レポート(20点)	
授業方法	課題に対し個人やグループで作品づくり・発表・振り返りを繰り返す演習形式で進行します。また毎回、様々な歌を歌います。			
授業計画	1 オリエンテーション 授業内容とポイントの解説／“あそび”“表現”を考える 2 子どものうた(1) いろいろな歌をうたう・手あそび・歌あそび 3 子どものうた(2) 保育における歌を考える・子どもに歌を教えるには／まとめ 4 様々な素材を使った表現(1) 詩を素材としてあそぶ(グループワーク) 5 保育における“ごっこあそび・劇あそび・劇”を考える 6 様々な素材を使った表現(2) 詩を題材とした作品づくりの実践(グループワーク) 7 様々な素材を使った表現(3) 詩を題材とした創作作品の発表／まとめ 8 様々な素材を使った表現(4) 動画の鑑賞を通して 9 様々な素材を使った表現(5) 絵本を素材としてあそぶ(グループワーク) 10 様々な素材を使った表現(6) ボディー及びヴォイスパーカッション・体を使った表現 11 総合的な表現(1) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／素材の研究・準備 12 総合的な表現(2) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／ストーリー・演出の研究 13 総合的な表現(3) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／リハーサル 14 総合的な表現(4) ミュージカル作品を素材とした作品の創作／発表会 15 振り返りと総まとめ／表現活動の指導方法			
必須テキスト	『6訂版 歌はともだち』教育芸術社			
参考文献	『ポケットいっぱい』など音楽等の授業で使用している歌の本			
担当教員の 専門分野等	専門分野:音楽(声楽・作曲)表現 研究テーマ:音楽表現・劇あそび・演劇表現。児童劇に役者として15年間携わっていました。 表現教育やワークショップ、舞台演出等も行っています。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊び I		必修 講義	講 師	なかむらしんいちろう、 加藤 陽子
授業概要	[加藤陽子]手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目4コマ) 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ)				
授業目標	<p>1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。</p> <p>2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>【認定絵本士養成講座科目】 「認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」 ・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎・細江幸世) ・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する(認定:「絵本各論①」課題 中村・細江) ・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する(認定:「絵本各論②」課題 中村・いのうえちひろ・山田花菜・なかいかおり) 以下、文字数に制限があり未記入。</p>				
到達目標1	言葉に関する知識や技術を習得し実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み方や授業中の意欲的な学ぶ姿勢、課題提出など=合計(50点)		
到達目標2	【認定絵本士養成講座科目】認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。50点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となります。		
授業方法	講義・実技				
授業計画	<p>1 【認定絵本士養成講座】絵本が生まれる現場② 担当:横山雅代</p> <p>2 手話① 担当:加藤陽子 *ブレンディド</p> <p>3 【認定絵本士養成講座】絵本総論(絵本とは何か) 課題あり 担当:中村</p> <p>4 手話② 担当:加藤陽子 *ブレンディド</p> <p>5 5/27【認定絵本士養成講座】絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:なかいか</p> <p>6 手話③ 担当:加藤陽子 *ブレンディド</p> <p>7 【認定絵本士養成講座】さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:横山</p> <p>8 【認定絵本士養成講座】絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ) 課題あり 担当:手塚けんじ</p> <p>9 【認定絵本士養成講座】絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本) 課題あり 担当:いのうえ *ブレンディド→補講期間に对面授業</p> <p>10 【認定絵本士養成講座】心に寄り添う絵本 担当:細江幸世</p> <p>11 手話④ 担当:加藤陽子 *ブレンディド</p> <p>12 【認定絵本士養成講座】さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:手塚けんじ</p> <p>13 【認定絵本士養成講座】さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:いのうえ *ブレンディド→補講期間に对面授業</p> <p>14 【認定絵本士養成講座】絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について) 課題あり 担当:細江</p> <p>15 【認定絵本士養成講座】絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:なかいか</p>				
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献	【認定絵本士科目】適宜紹介する。				
担当教員の専門分野等	<p>【加藤】「実務経験のある教員による授業」【認定絵本士養成講座担当講師】 ○中村・細江:絵本をめぐる活動に精通した者/絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者/絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者/絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者/物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者/昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうえちひろ・山田花菜・なかいか:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者/絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者/物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者/絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚けんじ:情報メディアとしての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者/科学絵本などに関する専門的知識を有する者など ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業/昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者、以下文字数に制限があり未記入。</p>				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	0 %	
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %	
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	100 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	障害児保育 必修 講義		講 師	前川 圭一郎
授業概要	近年、「しょうがい」についての考え方が大きく変化してきている。「しょうがい」の考え方の背景には、「社会モデル」や「神経多様性」など、様々なキーワードが存在している。また、そうした考えの基盤には、「基本的人権」が存在しており、当事者の人権をどのように尊重していくのかという視点が求められる。本科目では、「しょうがい」とは何かということを軸に、保育現場における支援の在り方について考えていく授業となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。</li> <li>2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。</li> <li>3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。</li> <li>4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。</li> <li>5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	・「しょうがい」とは何かを考え、個々の発達の状況に応じた保育を行うための必要な知識について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(授業終了時に実施するリアクションペーパー・小テスト、20点) + 定期試験(30点) = 合計(50点) 意欲的、積極的な取り組みを評価し、期待します。	
到達目標2	・環境と個の相互作用という観点から、「しょうがい」を考え、適切な支援について考え説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(授業内で実施するグループワークにおける参加、20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	対面、または、オンラインによる授業において、講義とグループワークを通して学びを深めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ・本授業のガイダンス</li> <li>・「しょうがい」についての歴史的編成について</li> <li>・マジョリティとマイノリティについて</li> <li>・正常と異常について</li> <li>2 ・特権</li> <li>・隠れたカリキュラム</li> <li>・マイクロアグレッションとは</li> <li>3 ・自閉症スペクトラム(ASD)の理解</li> <li>4 ・自閉症スペクトラム(ASD)の支援</li> <li>5 ・注意欠如多動症(障害)ADHDの理解と支援</li> <li>6 ・限局性学習障害の理解と支援</li> <li>7 ・知的障害の理解と支援</li> <li>・ダウン症の理解と支援</li> <li>・出生前診断について</li> <li>8 ・視覚障害の理解と支援</li> <li>・聴覚障害の理解と支援</li> <li>9 ・肢体不自由の理解と支援</li> <li>・病弱について</li> <li>10 ・環境と個の相互作用の視点から支援を考える</li> <li>11 ・合理的配慮とは何か</li> <li>・基礎的環境整備とは何か</li> <li>12 ・応用行動分析学に基づく早期の支援について</li> <li>13 ・課題分析について</li> <li>・スモールステップに基づく支援について</li> <li>14 ・インクルーシブが誤用される時</li> <li>・真のインクルーシブに向けて「環境との相互作用」の視点から</li> <li>15 試験</li> </ol>			
必須テキスト	授業でその都度配布を行う			
参考文献	保育学用語辞典(秋田ら2019).-特別支援教(猿渡,前川ほか)-			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 保育所へのコンサルテーション・発達障害児の支援方法を研究。 『保育学用語辞典』、『段階別でわかる！発達が気になる子のやる気を引き出す指導法』等を分担執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子育て支援 必修 講義		講 師	今泉 岳雄
授業概要	保育の専門性とは何かを理解し、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援や、支援機関や支援対象の特性に応じた支援内容について、具体的に学んでいく。			
授業目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 子どもや保護者が抱える発達や精神上の問題や、それに伴った専門機関の特性や連携の仕方を理解する。			
到達目標1	保育士の行う保護者に対する子育て支援の内容や方法、また保護者と関わる時に表出されやすい自分の性格特性について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点	
到達目標2	子育て支援の対象となる保護者や子どもの問題に応じた支援方法や子育て支援を行っている機関の種類について具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	(1)授業内発表15点 (2)レポート35点	
授業方法	講義、ディスカッション、ロールプレイ、映像視聴、事例検討			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育の特性、保育士の業務、保育所における子育て支援、保護者との信頼関係形成のための保育者の態度について学ぶ。</li> <li>2 保護者や家庭の現状、保護者の状況に配慮した個別の支援プロセス、エコマップの作成等について学ぶ。</li> <li>3 エゴグラムを通して自分の特性を理解する。</li> <li>4 保護者支援に必要な情報をどのように得て支援に結びつけるかを学ぶ。</li> <li>5 認知行動療法やプロセスレコードの体験を通してストレスの対処や自分を知る。</li> <li>6 保護者支援のためのカウンセリングの知識について学ぶ。</li> <li>7 カウンセリングをロールプレイで体験するとともに、カウンセリング内容を記録する。</li> <li>8 子育て支援機関にどのようなものがあるか、またその役割や連携について学ぶ。</li> <li>9 虐待の実態と子どもに及ぼす影響、対応について学ぶ。</li> <li>10 どのような要因が保護者・保育者間のトラブルになるか、その予防や対応について考える。</li> <li>11 保護者が発達障害、神経症、うつ病、境界性人格障害、統合失調症を抱えている場合の理解と支援について学ぶ。</li> <li>12 子どもの知的障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害に等について理解し、支援について学ぶ。</li> <li>13 子どもの分離不安障害、緘黙、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害、うつ病、チック、吃音、転換性障害、指しゃぶり等についてその背景と支援について学ぶ</li> <li>14 目標の設定、支援内容や方法の計画、支援の実践、記録、評価について学ぶ。</li> <li>15 今まで学んだ内容のポイントを確認する。</li> </ol>			
必須テキスト	テキストなし。毎回の授業前にteamsに資料を掲載するので読んでおくこと。			
参考文献	「子育て支援」 公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀他編集 中央法規、授業中に適宜紹介、配布。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」臨床心理学専門。臨床心理士、公認心理師。神奈川県立の児童相談所、児童自立支援施設、日赤医療センター、東北文教大学(教授)などに勤務。「心理学のエッセンス」(日本評論社)、「ハッピー育児セラピー」(学習研究社)、「パパにもわかる子育ての本」(実業之日本社)、「お母さんひとりで悩まないで」(講談社)、他出版。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	10%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	30%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実践演習 必修 演習		講 師	石原 成
授業概要	保育に関する興味のある様々なテーマについて、幅広い視野をもって、主体的に関わる姿勢を養う。興味のあるテーマについて調査、分析、考察、発表を行う。テーマ設定について、他者に根拠を明確に示し、伝える能力を身に付ける。また、ディスカッションを通して、他者の意見を取り入れながら問題の解決の糸口を見つけ出し、方法を体験的に学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</li> <li>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。</li> <li>3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。</li> </ol>			
到達目標1	保育現場における現代的テーマについて、考察することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	ワークシート記入および提出(50点)	
到達目標2	テーマについて、調査・分析・考察・プレゼンテーションする技術、能力を身に付けることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出及びプレゼンテーション能力(50点)	
授業方法	これまでの自らの学習を各自が振り返り、グループ討論や個別指導を交え、自身が興味のあるテーマについて調査をし、まとめ、発表をする演習中心の授業である。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション～保育実践演習の進め方～</li> <li>2 テーマの設定①～関心を明確にする～</li> <li>3 テーマの設定②～テーマを決める・関心の深め方～</li> <li>4 研究のスタイル～調査・分析・考察の方法～</li> <li>5 中間発表に向けての個別指導及びレジユメの作成①</li> <li>6 中間発表に向けての個別指導及びレジユメの作成②</li> <li>7 中間発表に向けての個別指導及びレジユメの作成③</li> <li>8 中間報告及びディスカッション①</li> <li>9 中間報告及びディスカッション②</li> <li>10 中間報告を踏まえ、最終発表に向けた課題の点検、個別指導、レジユメ作成及び発表準備①</li> <li>11 発表に向けての課題の点検、個別指導、レジユメ作成及び発表準備②</li> <li>12 発表に向けての課題の点検、個別指導、レジユメ作成及び発表準備③</li> <li>13 発表①</li> <li>14 発表②</li> <li>15 発表③及びレジユメの取りまとめ、総評</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし 適宜資料を配布する			
参考文献	特になし 適宜紹介する			
担当教員の 専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、長年保育所での実務経験			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもと遊び		選択必修 講義	講 師	岡田 春佳
授業概要	「現場ですぐ活かせる授業」をモットーにカリキュラムを組んでいます。特に連絡帳の書き方レッスンは他の授業ではなかなか教わる事のない内容となっており毎年受講生から好評です。毎回保育の実践事例や保育実技を織り込みながら保育について学び、保育の専門性や保育のおもしろさについて深めます。新人保育士がつまづくことが多いことの一つに連絡帳があげられます。授業での書き方レッスンでは子どもを見る視点・記録の取り方について身に着ける事が出来ます。また、一人で考えるのではなく、授業内ではディスカッションの場を積極的に設けるので、自分以外の保育観も身に着ける事が出来ます。授業を通して保育の専門性の向上と保育者にとって必要なコミュニケーションスキルを身に着けます。また、手遊びや歌遊び、絵本の読み聞かせなどの実技も身に着ける事が出来ます。				
授業目標	本授業では保育について専門的な視点を養っていくとともに実際に現場に出た際、どのように保育を展開したらよいかをより実践に近い形で学び、保育者としての資質と指導法を身につけることを目標とします。				
到達目標1	保育の専門性を理解し、子どもの主体的な遊びについて、保育者の関わりと子どもの姿について説明することが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するレポート(30)授業への取り組み(グループ討議への貢献度・発表) (20点)		
到達目標2	保育事例についてのグループ討議を通して、自分の意見を伝える事が出来る。具体的な保育の場面を想定し、環境構成や保育士の関わりについて説明、実践することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するレポート(30点)授業への取り組み(グループ討議への貢献度・発表) (20点)		
授業方法	保育事例の検討ではグループディスカッションを中心に行います。また手遊びは簡単で覚えやすく、実践ですぐに使える内容となっています。				
授業計画	<p>1 ・自己紹介・授業の進め方について・保育とは ・講義テーマ「こどもの心を探る1」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>2 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「こどもの心を探る1」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>3 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「連絡帳の書き方」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>4 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「こどもの心を探る2」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>5 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「絵本の読み聞かせのポイント」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>6 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び1～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>7 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び2～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>8 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～主体性を育む遊び3～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>9 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～ていねいな保育～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>10 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「明日の保育に活かせる事例検討～乳児保育～」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>11 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「子どもが遊びたくなる環境構成」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>12 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「主体的な行事の作り方のポイント」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>13 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「アートが育む子どもの感性」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>14 ・連絡帳レッスン ・講義テーマ「子どもの遊びと記録の取り方」 ・手遊び、歌遊び、絵本読み聞かせ(3つのうちのいずれか)</p> <p>15 まとめ 「保育の専門性とは、おもしろさとは？」</p>				
必須テキスト	「まあせんせいの子どもが「育ち合う」遊び」				
参考文献					
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。公立保育園での12年間の保育士経験があり、より現場に近い内容で授業を構成しています。現在は学校法人菊地学園(理事長:菊地政隆)に在職中。主任・園長の経験もありますので、授業以外でも、キャリアアップや就職相談も可能です。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	30 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養実習 選択必修 講義	講 師	黒須 友里愛	
授業概要	離乳食・幼児食を実際に作ることによって、固さ、大きさ、バランスの良い献立などを理解する。 食育の実際について事例(計画作成)を行いながら学ぶ。			
授業目標	1.子どもの発育・発達と食生活の関連について実践する。 2.保育における食育について考え実践する。			
到達目標1	子どもの食について口腔機能の発達と食事形態を理解し、離乳食や幼児食を作ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	離乳食・幼児食実習への取り組みおよび課題の提出 (50点)	
到達目標2	子どもの食の問題について考え、問題を改善するための食育を行うことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	食育の課題の作成(20点)、食育の課題発表(30点)	
授業方法	子どもの成長の段階に合わせた調理実習。 食育の計画、媒体の作成、発表を行う。			
授業計画	1 オリエンテーション 栄養計算と献立作成について 2 調乳、離乳食の説明 3 調乳実習 4 献立作成実習 栄養バランスの取れた食事について考え献立を作成する 5 離乳食実習1(5～6ヶ月、7～8ヶ月) 6 献立作成実習 7 離乳食実習2(9～11ヶ月、12～18ヶ月) 8 幼児食実習(幼児の間食) 9 幼児食、アレルギー食の説明 10 アレルギー対応食実習 11 子どもの食の問題点について 12 食育媒体を作る 13 食育媒体を作る 14 食育発表 15 実習の振り返り、まとめ			
必須テキスト	1年次の子どもと食と栄養で使用したテキスト			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	食品機能学			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	合唱と合奏		選択必修 講義	講 師	金淵 洋子、木下 裕子、 竹田 えり
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていきます。1・3・5・7・9・11・13・15の8回がピアノ個人レッスン、2・4・6・8・10・12・14の7回が全体授業での歌遊びのコマとなります。歌遊びの全体授業では、後半を必ずピアノの自主練習に充て、翌週のピアノの予習を行います。担当講師1名のため、活発に質問を行いながら進めてください。レパートリーを増やして実習に向けて実践力を養っていきましょう。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	個人レッスン(ピアノ等)では保育実習に向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲仕上げる事が出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業日以外での積極的な自主練習と授業への積極的な取り組み(20点)・実技試験(30点)		
到達目標2	全体授業では、環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。また授業後半の全員参加のA52教室・その他レッスン室での個人練習に意欲的に取り組むことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	クラス全体での歌遊びや合唱への積極的参加・自主練習への能動的な取り組み(20点)実技試験(30点)		
授業方法	・15回の授業を交互に、④小グループでのピアノを中心とした個人レッスン ⑤全体での歌遊び(但し後半はピアノの自主練習にあてる。)に設定し交互に受講する。・15回を通して進度表に必ず自身の振り返りを記入し、各担当講師との円滑な協働を図っていきましょう。 ・実技試験の日程については各講師から発表される。				
授業計画	1 ④ピアノ個人レッスン:教務より発表される小グループに分かれ、ピアノ個人レッスン室にて、オリエンテーション・進度表配布・ピアノレッスン。 2 ⑤全体授業。現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)子どもの歌や合唱、リズム遊び等の演習。以下同様。 3 ④ピアノ個人レッスン 4 ⑤全体授業。以下同様。 5 ④ピアノ個人レッスン 6 ⑤全体授業。以下同様。 7 ④ピアノ個人レッスン 8 ⑤全体授業。以下同様 9 ④ピアノ個人レッスン 10 ⑤全体授業 以下同様 11 ④ピアノ個人レッスン 12 ⑤全体授業 以下同様 13 ④ピアノ個人レッスン 14 ⑤全体授業 実技試験発表とフィードバック 15 ④ピアノ個人レッスン実技試験発表(個人レッスンの小グループで行います。) ・フィードバック				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社  ※対面時は”有線イヤフォンorヘッドフォン”をお持ちください				
参考文献	日本児童教育専門学校編『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学				
担当教員の 専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。日本ダルクローズ音楽教育学会、全日本リトミック音楽教育研究会会員。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育教材研究 選択必修 講義	講 師	なかむらしんいちろう	
授業概要	これまで獲得した基礎的な造形技法や、実習における実践的視点を踏まえ、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行う。 また、現場での子どもの造形活動における認識を深めるために、自ら「失敗を恐れず遊びの中で想像力を養う子どもの造形活動」を体験する。 これにより、造形活動の指導のポイントや子どもの表現活動の援助について学ぶ。			
授業目標	子どもの創作活動を体験し、想像力を広げる。将来の現場実践のため、教材について視野を広げる。			
到達目標1	授業に参加し、保育教材としての造形を理解する。そして授業時間内に製作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加。取り組んだ内容、回数で評価する(常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点+創意工夫5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出(作品を撮影しteamsに画像を提出。提出回数やコメント、締切日厳守で評価する 45点 +その他 ①グループワーク等での周囲との協力 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、出席状況、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出)*社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更			
授業計画	1 対面:前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、お面づくり 2 ブレンド:絵本研究:絵本作家の仕事と絵本制作ワークショップ:課題提出 3 対面:衣装づくり:ポリ袋 4 ブレンド:イラスト練習:簡単な絵の描き方:季節の絵 5 対面:素材研究:ボンドに絵の具を混ぜ、形を整えるまたは、アルミホイル:粘土のように自由な形を作る 6 ブレンド:絵画の援助:講義:レポート提出:苦手な子への援助等 7 対面:壁面制作:リサイクルペーパーを使った集団制作 8 ブレンド:感触を楽しむ:講義:レポート提出:泥遊び等 9 対面:フィンガーペイントによる絵画制作 10 ブレンド:子どもの文化研究:子どもが好きなメディアについて(アニメ、キャラクターなど) 11 対面:絵本研究:エリック・カールの技法を再現して自分の絵を作る 12 ブレンド:レジヨの座学:講義:笑い顔と泣き顔 13 対面:レジヨの実践①:光を用いた作品制作:カラーセロハンなどの素材研究 14 対面:レジヨの実践②:カラーポリ袋を用いたリサイクル廃材を用いた制作および集団遊び 15 対面:これまでの2年間のまとめ			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	適宜紹介する			
担当教員の 専門分野等	なかむらしんいちろう:絵本作家、イラストレーター			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	松森 照幸
授業概要	保育士として大切なコミュニケーション力、一つのものに対し力を合わせ作り上げていく必要性を学習する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・身体表現遊びⅠで学んだ内容を基本としてさらに実践的スキルを身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(40%)、提出物(10%)	
到達目標2	・基本的な運動のしくみ、意味を理解し、グループワークを通して、協同する大切さや、実践につながる方法を理解する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出物(20%)、発表内容(30%) 授業への取り組みによる総合評価	
授業方法	様々な集団遊びを通して、人間関係を築ける行事内容を学習し、自らも企画、準備をする体験をし、チームワークの大切さに気付く。			
授業計画	1 ・オリエンテーション・表現遊びとは・運動会とは 2 ・かけっこ①歩く、走るとは②リレー(団体競技の指導上の留意点)・モルック 3 ・幼児期運動指針とは・運動遊びを年間を通して実施するねらいと意味 4 ・運動会を観る(DVD)・ボール転がし競争(ボールとかご)、風船ボールづくり、ドッチボール、フープ遊び 5 幼児と運動 6 パラバルーン、組体操、ポッチャ 7 指導上の留意点 8 遊び製作 ・スズランテープ、的あて(スズラン、折り紙、ティッシュ)・はさんで運んで(輪ゴム、ひも、ペットボトル、風船、スイカボール)、風船はさみ競争、王様ジャンケン、イカとタコ 9 運動会に向けての企画・運動会種目づくり① 10 運動会に向けての企画・運動会種目づくり② 11 運動会に向けての企画・運動会種目づくり③ 12 運動会に向けての企画・運動会種目づくり④ 13 運動会に向けての企画・運動会種目づくり⑤ 14 企画についてのプレゼンテーション 15 まとめ※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります。			
必須テキスト	特になし			
参考文献	ハッピー運動会楽しさいっぱい種目集			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年保育現場に勤務し、保育現場に携わる。現在は幼稚園、保育園で幼児体育講師として勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ 選択必修 講義		講 師	廣田 篤憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法をより高めるように習得する。			
授業目標	1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育てたい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。 2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。 3. 子どもが生活や造形遊びにおいて体験していることを捉え、造形教育で留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。			
到達目標1	到達目標1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、制作した作品への取り組み(30点)	
到達目標2	保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品の制作の指導方法の理解(30点)、造形環境の準備内容の把握(20点)	
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。多種多様な表現方法を学び身につける。			
授業計画	1 保育における造形表現の意味、造形表現の基礎知識(色彩、画材などの基礎知識)、幼児の造形教育のねらいと方法(教材、素材の活用などについて) ・教科書:P.112~P.119 2 画用紙とクレヨン・クレパスを使って、虹色の形を作ろう(指を使って画材の特性を知る) ・教科書:P.58 3 紙コップを使ってタコを作る(紙コップを色画用紙で巻く方法) ・教科書:P.80 4 画用紙をZ折りにして、展開して変化することを楽しむ絵を描く ・教科書:P.140 5 カップ麺の容器を使ってカメを作る ・教科書:P.94 6 バチック(はじき絵)、油性のクレヨンと水彩絵の具の性質を生かして ・教科書:P.56 7 ペットボトルを使って輪投げのピンを作り、新聞紙で輪投げの輪を制作する。 ・教科書:P.182 8 色画用紙を使ってアニマルフェイスのペーパークラフト ・教科書:P.144、P.145 9 発想を形にする:自由なイメージでの制作 ・教科書:P.136 10 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その1. 和紙ハガキを使ってマーブリング制作 ・教科書:P.117、P.126 11 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その2. マーブリングを施した紙を使って魚の工作、竹ひごなどを使って釣り竿作り ・教科書:P.177 12 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する1. ・教科書:P.147 13 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する2. ・教科書:P.147 14 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その1. ・教科書:P.142、P.145 15 色画用紙を使って、動くペーパークラフトの制作、その2. ・教科書:P.142、P.145			
必須テキスト	幼児造形の基礎 萌文書林 著者:樋口一成 編著			
参考文献				
担当教員の専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業 中・高等学校美術科教諭を経てイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、ペーパークラフト、アーマチュアの制作、アートディレクションなど			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅡ		選択必修 講義	講 師	横山 雅代、本多 ちかこ
授業概要	[横山]子どもとのコミュニケーションを豊かにしたり、子どもの語彙を豊かにする言葉遊びを、様々な視点から学ぶ。 [本多]紙芝居の特性を知り、演じ方と制作を学ぶ。 [しんいちろう]絵本を作る楽しさを学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	[横山] 子どもとのコミュニケーションを豊かにする様々な言葉遊びを知る。 [本多] 紙芝居を作り演じることができる。紙芝居の特性を知り、演じることによって、子どもと楽しくコミュニケーションをとることができる。 [しんいちろう] オリジナルの小さな絵本の制作法を理解する。毎回、授業内で行われる絵本創作に向けたミニ課題を提出する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	作品、発表、授業の取り組みを講師それぞれで評価し、合算して算出します。100点満点 (横山先生50点+本多先生50点+しんいちろう先生50点)÷3		
到達目標2	[横山] 子どもとのコミュニケーションを豊かにする様々な言葉遊びを知り実践できる。 [本多] 紙芝居を作り演じることができる。紙芝居の特性を知り、演じることによって、子どもと楽しくコミュニケーションをとることができる。さらにオリジナルの紙芝居を制作できる。紙芝居作品の総合評価。 [しんいちろう] オリジナルの小さな絵本を制作できる。絵本作品の総合評価。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品、発表、授業の取り組みを講師それぞれで評価し、合算して算出します。100点満点 (横山先生50点+本多先生50点+しんいちろう先生50点)÷3		
授業方法	この授業は3名の講師によるオムニバス形式で行われる。 [横山]絵本を中心にした講義とワークショップ形式で進める。□ [本多]紙芝居制作と実演のワークショップ及び講義。 [しんいちろう]パワーポイントと実物の絵本を見せながらの授業。 ※授業計画の順番はクラスにより異なります。別紙オムニバス科目授業日程をご確認ください。 *別途、自己負担の材料費数百円が必要になります。材料は配布します。またものを作る、絵を描くなどの道具や材料は各自で用意します。				
授業計画	1 [横山]1 あいうえおであそぼう 2 [横山]2 数えて遊ぼう 3 [横山]3 謎で遊ぼう 4 [横山]4 音であそぼう 5 [横山]5 詩であそぼう 6 [本多]1 さまざまな紙芝居を観る 7 [本多]2 紙芝居を作ってみよう 8 [本多]3 実演のポイントを知ろう 9 [本多]4 紙芝居の歴史と特性を知ろう 10 [本多]5 舞台を使って演じてみよう 11 [しんいちろう]1 絵本制作(1)手づくり絵本とは。 12 [しんいちろう]2 絵本制作(2)絵本の構造と楽しいアイデア。 13 [しんいちろう]3 絵本制作(3)下書きの書き方。 14 [しんいちろう]4 絵本制作(4)製本の方法。 15 [しんいちろう]5 絵本制作(5)手づくり絵本の発表と鑑賞。				
必須テキスト	必要な際にプリントなどを配布				
参考文献	必要な際に資料プリント等を配布・参考図書などを紹介				
担当教員の専門分野等	しんいちろう:イラストレーター、絵本作家 本多:紙芝居の創作と実演 横山:絵本、紙しばい、児童書の編集歴30年				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	0 %	
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %	
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	100 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	選択必修 保育実習指導Ⅱ 講義		講 師	松森 照幸
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰについて、グループディスカッション・個人面談・実習体験発表を通じて振り返り、評価・反省に基づいて自己課題を理解し必要な学習に取り組む</li> <li>・保育実習Ⅱで臨む部分実習、責任実習のための準備を行う</li> </ul>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</li> <li>2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</li> <li>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ol>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に必要な話し合いや発表に積極的に参加し、学んだ知識を活かして自己学習に取り組むことができる。</li> <li>・課題を期日内にきちんと提出することができる。</li> <li>・責任実習全日指導計画を書けるようになる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	試験「責任実習全日指導計画」(30点)、課題提出(20点)	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任実習、部分実習のために保育教材の制作および指導案の立案が出来る。</li> <li>・模擬保育の実践発表を責任を持って行うことが出来る。</li> </ul>	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	模擬保育の準備・発表(30点)、模擬保育指導案(20点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、演習(グループワーク)および実技・発表</li> <li>・保育実習Ⅰの振り返りとともに模擬保育の実践、責任実習指導案を完成させるための自己学習</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業オリエンテーション(授業概要・目標・評価方法・持ち物等の説明)</li> <li>2 主活動の指導計画 保育実習ⅠとⅡの違いを知る</li> <li>3 指導計画について</li> <li>4 個人票の下書き</li> <li>5 保育現場職員とのワークショップ</li> <li>6 模擬保育に向けて①(作って遊ぶ活動の選択/ねらい)</li> <li>7 模擬保育に向けて②(教材準備)</li> <li>8 模擬保育に向けて③(導入の意味)</li> <li>9 模擬保育に向けて④(材料の配布・説明・遊びの展開)</li> <li>10 試験と模擬保育の発表について確認</li> <li>11 試験「責任実習全日指導計画」</li> <li>12 模擬保育実践1</li> <li>13 模擬保育実践2</li> <li>14 模擬保育実践3</li> <li>15 確認事項等(中間評価について、心構え)</li> </ol>			
必須テキスト	保育実習指導1aで使用した「千春と大吾の保育実習ストーリー」			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %